

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」(平成22年度採択)

中間評価結果

番号	研究名	研究代表者	評価
22-1	都市高速道路における突発事象時の最適交通運用についての研究開発	東京工業大学 教授 朝倉 康夫	B
<p>< 研究の概要 ></p> <p>都市高速道路において、事前に予測が困難な事故等の障害（突発事象）の発生を速やかに検出し、その事象によって生じる旅行時間の変化を予測して利用者に提供するための技術を開発するとともに、突発事象の影響を最小化するために、情報提供下での利用者行動分析を踏まえた交通運用の最適化方策について研究する。</p> <p>< 中間評価結果 ></p> <p>研究の進捗状況、見通しともに概ね良好であるものの、具体的な技術開発目標や既存研究との違いの明確化等に課題があることから、指摘事項を踏まえ、研究を推進することが妥当である。</p> <p>< 今後の研究計画・方法への指摘事項 ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 最終的にどのように使われるシステムとしているのか、そして個々の研究がそれぞれどのようにどの程度それに寄与する見込みなのか、より明確にしつつ、邁進いただきたい。 2. 突発渋滞の延進、短縮情報の影響についてもモデルに取り込むとともに、交通運用の最適化の評価指標及び考慮するネットワークの範囲を明確にしていきたい。 3. 情報提供は道路上のサインという空間を固定したものと提供されるかと考えるのか、あるいは個別の車両にナビ等を使って提供されるのか。後者の場合、その提供情報の受容率等によっても全体の交通現象は変化するものと考えられるが、どのような前提に基づいているのか、こうした点を明確にしていきたい。 			